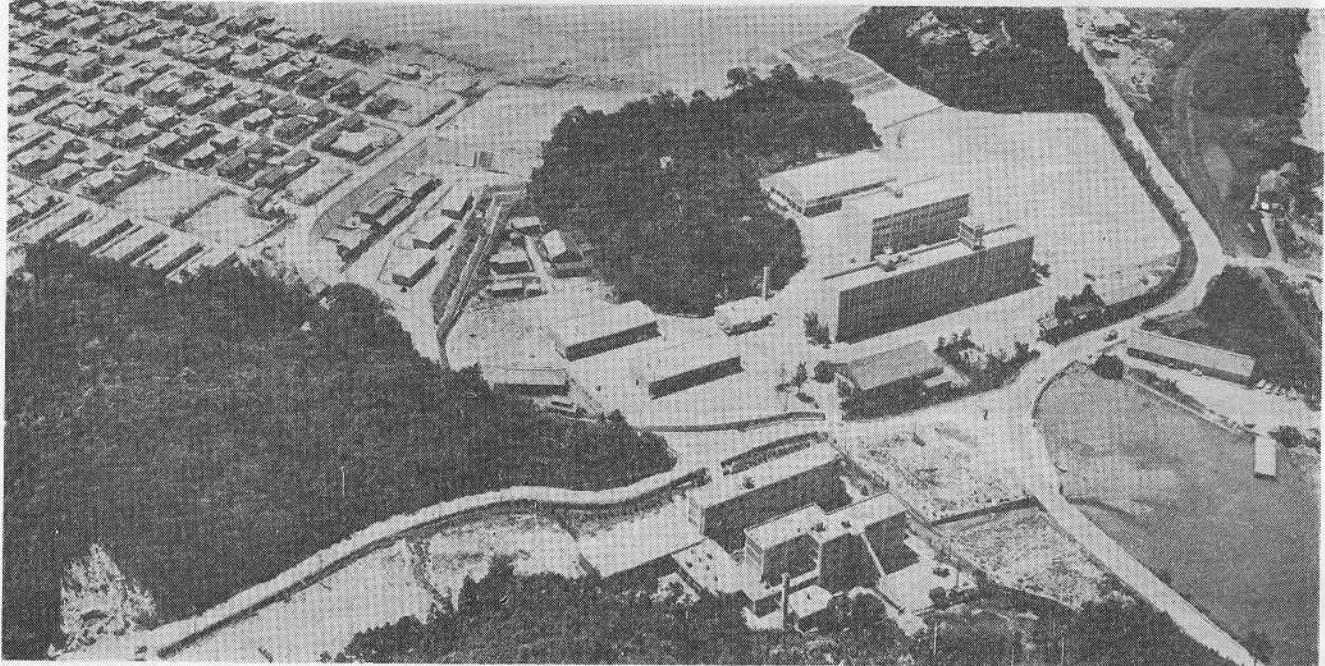


# 同窓會報

発行所  
三重県鳥羽市池上町1の1  
鳥羽商船高等専門学校内会  
鳥羽商船同窓会  
電話 (05992) 5-3137  
新便番号 5 1 7  
製作  
神戸市生田区海岸通3(海岸ビル)  
海交社  
電話 (078) 33-2481~3番



このたびの同窓会総会において國  
らすも会長に推举され就任はさせて  
頂きましたが、身に余る光榮  
と感激するより、その責務の  
重いことを先づ痛感いたして  
おります。

高橋前会長は六年の永きにわたり格別のご尽力を賜り、そのお蔭で母校も高等専門学校に昇格が実現し、また創立九十周年記念事業の一つとして学校関係物故者慰靈碑の建立されるなど幾多のご功績を残され勇退されたが、ご在任中のお骨折りに対し深く尊い感謝の誠を捧げるものでありま

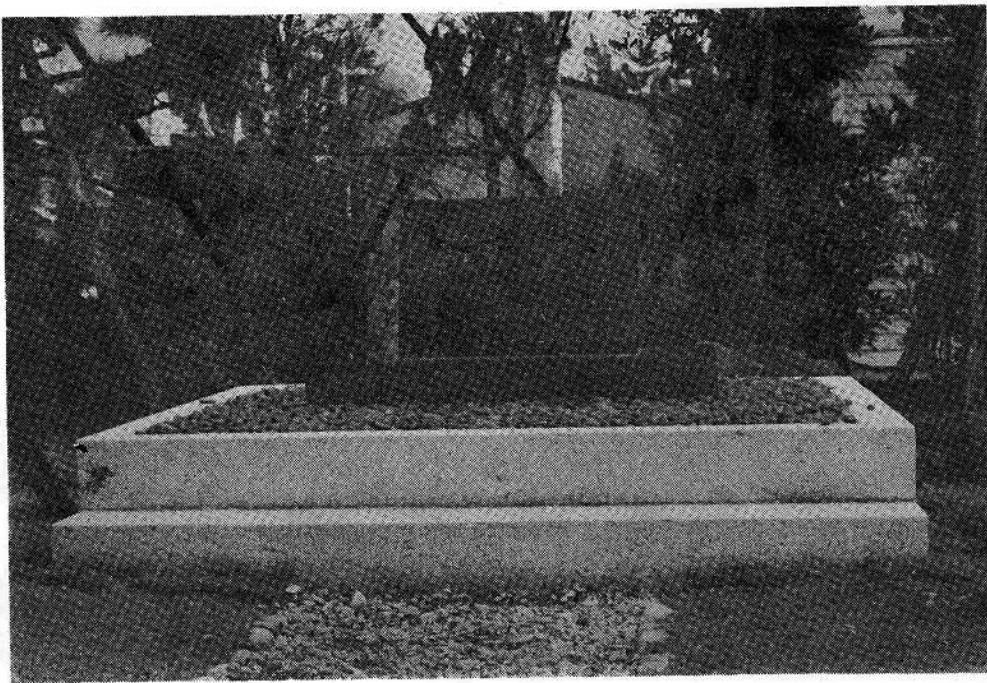
波静かに打よせる池の浦辺に松の大  
緑に包まれて高くそびえる白亜の大  
校舎、明るく立ち並んだ学生寮、広  
々としたグランドなど流石に国立校  
らしく堂々として近代的な母校の姿



に且ての私立から町立へ、町立から県立時代の当時を回想するとき  
一時は廢校にならんとした憂き悲  
壯な歴史がどこに秘められていいよ  
うとは思えぬものがあり、知る者  
をして感慨無量のものがありま  
す。

夫好島西長会と御協力を併せてお願ひ申し上げま  
諸君がこれにつづいて同窓会は母校と共に益々発展途上にありますことは、まことに御同慶至極と存じ上げます。

この秋にあたり新らしく就任いたしました役員一同心を合せて会の運営発展に精進いたしたい所存であります。が、関係各位の御懇切なる御指導して御挨拶をいたしました。



## 慰靈碑

### 除幕式 慰靈祭

盛大におこなわれる

二年前より着々準備を進めていた慰靈碑の建設も漸く完成し、秋晴れの十月十二日に除幕式並びに慰靈祭をおこそかに執行することができます。会員各位の御協力を深謝いたします。

この日参集した遺族は一〇五組ですが付添いが多いので正確な人数は不明です。それに同窓が九一名、学校職員、学生及び来賓を加えると約六〇〇名の多きに達し稀に見る盛大な式典となりました。

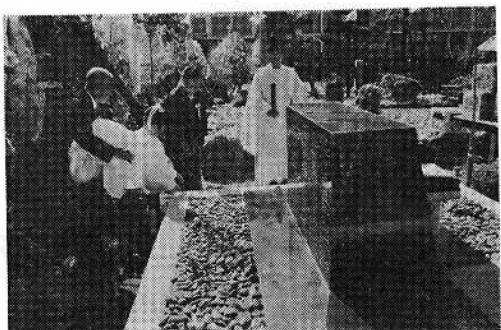
午前十一時金刀比羅宮鳥羽分社の宮司浅倉薰氏の修祓に続いて当市出身の故木村準二船長の御令孫弥生さんのかわいい手により白い幕がおごそかに引かれると一斉に拍手が起り、黒花崗石の碑面があたかも一千余柱のみ靈の面影を彷彿させる如く神々しい有様で参列者の目を見張らせました。祭壇や境内の周囲は沢山の花輪やお供物で飾られ、宮司の祝詞奏上と祭主の祭文奏上が終ると学校職員、同窓、来賓、学生の各代表、統いて遺族が各自に玉串奉奠を行ないました。が遺族の方々が延々長蛇の列を作つて冥福を祈る姿には目頭の熱くなるのをおぼえました。

来賓も多数参列していただいて三重県知事と鳥羽市教育長よりは御丁重な祝辞を賜わりました。式典は一時間半で終り、遺族は皆満足な様子で散会しましたが、その後沢山の礼状が舞い込んでいます。参列者には次のパンフレットを配布したので掲載いたします。

本校は海運界の大先覚者近藤眞琴翁が郷里鳥羽の一隅に攻玉社商船寮の分寮を設立されてから本年は八八年目になります。その間幾

### 鳥羽商船関係物故者

### 慰靈碑建立建設の趣旨



(四四・一〇・二〇 谷口記)

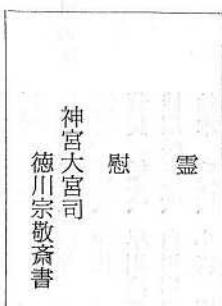
多くの曲折を経ながら私立から町立となり、遂に今日の国立鳥羽商船高等専門学校に昇格わが国商船教育の重責を果しつつあります。

本校の発展は学校職員の献身的な奉仕と約三千名の卒業生が近藤精神に徹して勉学に励み、わが海運の伸展に寄与した賜物であります。

本校の出身者の中には戦争や事変に際して海上第一線の危険にさらされながら、その職務を遂行し遂には殉國の英靈となられた方々もあり、また陸上と異った気象条件と斗い船と運命と共にされた方々や病魔、その他でたおれた方々並びに学校職員の中で他界された方々を合せ、約一、〇〇〇名にも及んでおります。

鳥羽商船同窓会においては、これら学校関係物故者の功績をたたえ、その御冥福を祈念するため慰靈碑建設の議が数年前より起つていましたが、昭和四十二年六月十一日開催の同窓会総会において母校創立九〇周年記念事業の一つとして、これが実現を期することになりました。なおこの慰靈碑には既物故者のみならず今後の物故者も逐次祀祀するものであります。以上の目的を達成するため建設準備委員会を組織し各地区に合計三十名の委員を委嘱して事業の遂行に当りましたが、幸い全会員の協力を得て予定よりも早く完成することができた次第であります。

このいしぶみは、海運界の先  
覚者校祖近藤真翠翁の記念碑の先  
かたわらに、母校建学九〇周年記念事業の一環として、物故職



碑 銘	伊勢市二俣町 森田造園	石友石材店	（本校出身）
設計者	草月流師範	西島好夫	近藤翁記念碑の左横
地 積	八坪		
用 材	デンマーク産	黒花崗石	
請負者	伊勢市河崎町		

建設要旨

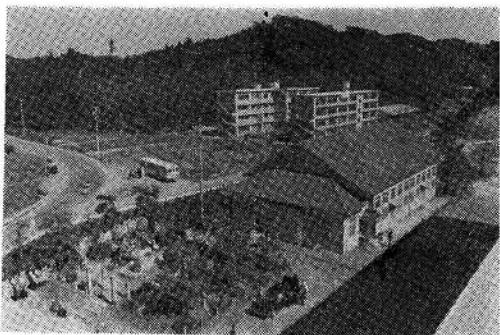


在天のみたまよ、ねがわくはひとしく天降りまして、この由緒ある母校の聖域にとこしえにしまりまし、この学舎永遠の癡展の礎ともなりたまわらんこと

昭和四十四年十月  
楠井栄八郎謹記

感靈碑合祀者名簿  
〔卒業生の部〕

昭和四十四年十月十二日



M 42 N	M 41 E	M 41 N	M 40 E	M 40 N	M 39 E
鈴木 紳一、増田 欣作	大木 基一、仲 儀助	木村留三郎、石川 亮平	奥川德次郎、中村 捨藏	川田元三郎、白井 謙吉	稻津 三次、一色 基策
駒田 俊士、谷口徳次郎	草深仙二郎、石川作次郎	木村 基一、申 伸	泉 穎一郎、西井 蘇来	渋谷 德郎、角佐 一郎	浅井 定吉、中沢信太郎
鍋島 信男、武田 浩造	田中 万市、川口新次郎	谷 伝五郎、矢地 豊七	森 太郎、久住庄次郎	菅長 橋次、早川治郎尾	玉分 楠松、三浦惣次郎
村山友太郎、鶴田吉之助	木村留三郎、石川 亮平	小木曾達三、山川 嘉助	中井 茂男、池田 藤三	桂川松三郎、白男川侃介	後藤 審次、伊藤義三郎
鈴木 紳一、増田 欣作	大木 基一、仲 儀助	仁科 秀雄、吉沢 新吉	奥川德次郎、中村 捨藏	鉢木 豊作、小森 四海	野尻 竹藏、小林 利政
駒田 俊士、谷口徳次郎	草深仙二郎、石川作次郎	谷 伝五郎、矢地 豊七	泉 穎一郎、西井 蘇来	宮部 外吉、服部 重	尾松 清一
鍋島 信男、武田 浩造	田中 万市、川口新次郎	木村留三郎、石川 亮平	森 太郎、久住庄次郎	宮出 俊司、上原三治郎	川口 四郎、高橋角次郎
村山友太郎、鶴田吉之助	木村留三郎、石川 亮平	大木 基一、申 伸	中井 茂男、池田 藤三	押田自治郎	玉分 楠松、三浦惣次郎

M 44 N	水谷 真次、瀬古峰太郎 小川 金吾、浅井 一 新帶 浩、天野 靈宣 中島 信男、野口辰之助 松生 伴八、高木 丞 岩田 耕平、飯田 治平
M 43 E	森 正之助、斯波 金一 井倉 英三、山本久太郎 谷 信吾、森田 保彦 重野 雅重、味岡 達 川村 寛、山内作三郎 中村 菊男、東山 嘉七 弓倉 常吉、昼川 幸吉 中村 利一
M 43 N	笠井幸一郎、中野 米吉 島村文三郎、後藤文九郎 田辺安次郎、中林七郎次 則武 芳丸、辻村 安吉 小川卯一郎、辻 憲次 伊藤 康熙
M 42 E	坂倉藤二郎、大方 一郎 久保田憲六郎

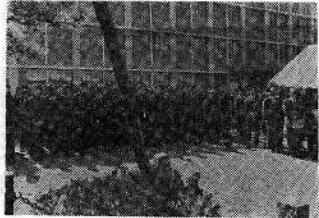
M 44 E	青木 秀作、野田 耕作
M 45 N	中川利三郎、川崎猪三郎
T 4 N	東 敏郎、大橋 高景
T 3 E	中西 英二、岡村 寅吉
T 3 N	田島寅三郎、在藤 博
T 2 E	須藤 清、西田 耕三
T 2 N	斎藤郁之助、城山仙次郎
M 45 E	吉原末治郎
A 奥村邦次郎、浦口 作松	小坂 清作、奥村 完一
B 伊藤 広、柘植 鉄	伊藤 広、柘植 鉄
C 光野栄三郎、板倉惣太郎	光野栄三郎、板倉惣太郎
D 小野田 勝、服部 啓佐	小野田 勝、服部 啓佐
E 前田 清吾、西山 国男	前田 清吾、西山 国男
F 平野 正道、竹内公太郎	平野 正道、竹内公太郎
G 境 清吉、柴原 晴雄	鵜飼 峰三、森 兼隆
H 犬田 儀助、岩田 孫一	幾田 儀助、岩田 孫一
I 中川源之助、井上 節三	中川源之助、井上 節三
J 本田 梅一、鈴木 設治	本田 梅一、鈴木 設治
K 松下 久民、竹内政次郎	脇田 久民、竹内政次郎
L 加藤駒次郎、西野幸次郎	加藤駒次郎、西野幸次郎
M 堀 重太郎、大久保佐蔵	堀 重太郎、大久保佐蔵
N 島地 巍、加藤 敬次	島地 巍、加藤 敬次
O 明石 由也、新田巳之助	明石 由也、新田巳之助
P 磯田竜之助、大山 義夫	磯田竜之助、大山 義夫
Q 吉野 富雄、丸毛梅三郎	吉野 富雄、丸毛梅三郎
R 中村 半次、中村 裏作	中村 半次、中村 裏作
S 増田 德松、上村 清作	増田 德松、上村 清作
T 調訪 鍔一、杉浦 啓正	調訪 鍔一、杉浦 啓正
U 浜口 西藏、森 充雄	浜口 西藏、森 充雄
V 二見 省三	二見 省三
W 近藤秀次郎、伊藤繁三郎	近藤秀次郎、伊藤繁三郎
X 岩瀬 甚吉、竹田千代男	岩瀬 甚吉、竹田千代男
Y 林 幸三郎、鰺坂 富恵	林 幸三郎、鰺坂 富恵
Z 森 勝次郎、堀井 清吉	森 勝次郎、堀井 清吉

T 4 E	石田　信義、松本 佐藤　泰治、辻　敏夫
T 5 N	大飼柳五郎、普光江穂吉 佐藤政五郎、平石杉之丞
T 5 E	浅野　初一、青木　嘉男 鈴木宗九郎、田中　由助
T 6 N	横堀　貞一、鈴木　忠義 山本　兵助、堀　善七
T 6 E	江島　保道、杉野　和儀 山本留吉、宇佐美房次郎
T 7 N	山田武二郎、田畠　俊二 頬野　精吾
T 7 E	平岡辰之助、家田和次郎 岡村光太郎、古川九一郎
T 8 N	佐々木貞造、綿鍋　長介 位田仙太郎、田口　稽
T 8 E	出口政次郎、大平　茂吉 浜口清太郎、竹村　幹郎
T 9 N	安田　康二 杉浦　雄一、児玉　静雄
T 9 E	杉井徳次郎、大木　忠雄 松葉与喜松、若杉源太郎
T 10 N	山口太左衛門、月井鶴松 中村幸三郎、西浦代治郎
T 10 E	[斎藤　捨藏、谷本専太郎 前田実二郎]
T 11 N	[池田　四郎、野沢　宇一 服部　孝、薬師　勝見
T 11 E	[田中　弘、前川亀三郎 竹内　節夫、阿曾　繁松
T 12 N	[中西　勘吉、白山　精二 佐藤　良助、福島　秀一
T 12 E	[今枝　松治、折戸　功 下野　定吉、岡島玉次郎 佐藤　正造、増田　楠男 上森　房吉、長谷　悦夫

T 11 N	T 10 E	T 10 N	T 9 E	T 8 N	T 8 E	T 8 N
西尾斎太郎、里見嘉賀	豊田多郎、岸田芳衛	河上光男、三原義夫	轟谷暢史郎、木村利三郎	中島篤雄、藤沢一三	丹羽泰重、近藤平市	三谷英三郎、水野嘉六
森田南出	日向辰三	木下良隆、向原弥助	木下精一、小野六輔	岩田茂三郎、松田義男	岩田茂三郎、松田義男	西尾斎太郎、里見嘉賀
福森奈良松、安田貞	稻垣義策、水谷院	北川潤二、岡田幸一	北川六郎、秦獻二	吉村隆、森秀之助	谷信吾、西田久武	大西重雄、丸山義二
諸岡久山	大西中根	雪岡渡、鈴木良三	久山重雄、丸山義二	市川未次、梶路省三	柳原林一、野村米治	稻垣光雄、安田貞
森田平井	稻垣光吉、澤野長島	市川榎本捨藏、高草木勇三郎	中野保雄、池田佐一	中野保雄、池田佐一	中野保雄、池田佐一	稻垣光雄、安田貞
一義富春光、川村信男	正義寺田定郎	岡田由三郎、榎本喜代治	玉置勇次郎	福森奈良松、安田貞	福森奈良松、安田貞	稻垣光吉、澤野長島
善徳	悟郎	榎本捨藏、高草木勇三郎	玉置勇次郎	久山重雄、丸山義二	久山重雄、丸山義二	稻垣光吉、澤野長島



羽田 金次、土井ミン子  
 西井 重三、土屋 光三  
 大井楠之助、木村 甚助  
 鶴田 立一、金岡 孫三  
 井上 柳三、早川 忠厚  
 岡 一雄、川崎猪三郎  
 本郷 重次、枚田卯之助  
 大形昌之助、田畑 貞三  
 正岡 宏、鈴木 豊作  
 三浦 繁三、轟石 義山  
 伊藤徳三郎、小川 水路  
 岡野三重助、小山 峰松  
 長山 林、横山照之助  
 山内万寿治、大脇 泰次  
 伊藤徳三郎、小川 水路  
 神田 仙吉、加藤常太郎  
 野口 太作、中村 萬作  
 橘 春精、松田 弥重  
 鈴木 安言、足立 信  
 石熊 房吉、若井 賢一  
 辻 繁太郎、大崎平太郎  
 奥川 善八、菅野安治郎  
 伊藤 宏、牛江 実  
 角 利助、今村源太郎  
 宮村盛之助、玉置 浩生  
 八木末次郎、久富 錦弥  
 佐藤 純良、本間順之助  
 土井 広次、高橋律之助  
 小林 米吉、土屋 巴  
 加藤 忠、木村 準一  
 矢野 馬吉、小沢 八郎  
 渡辺 稲垣多束男  
 戸泉 市造、宮部 清  
 滝川 晋、山本 銀治  
 広瀬 景芳、北川常太郎



谷本	楠雄	松本	定雄
中村	三藏	強力	半次郎
細野	春夫	出口	政治郎
中村	嘉六	田島	精一
植西	儀平	雲岡	照治
相引庄太郎	平井	寿八	
高津	博志	鎌田	音吉
木下宗三郎	佐藤	忠	
武藤	千丈	浦林	重吉
寺田	良雄	上村	音吉
谷口吉太郎	熊野	恵腸	
木下	てつ	佐藤	万吉
野呂	伏治	小林	兵松
山口	林三	名古	徳助
野田	睦	北川	
久野	英一	藤田	猛
霞堂	貞治	池田	宗一
中山	省吾	竹内	巳喜生
	正戸	太郎	

谷山中福松田上垣加西堤西後山柏浜松中井友井柴菅久竹小庄前山谷中浜斎長西末鎌西水本西永下中野内藤井 島藤林木畑本村上田上原 保内原村田本口村 藤川崎田川長太 芳信年和 卓一好好留矩友 暢浅典 豊康恵郁清 善耕徳英義 希好慶 藤敏生郎勧雄治秋泉進夫郎造夫吉藏幸勇生吉昭修治茂治夫磨博隆作男雄夫繁二道堂弘吉夫

S	T	S	S	S		中	S	S
11	8	16	19	4	"	·	2	5
N	N	E	E	E		退	N	E
松	間	船	中	泉	寺	奥	吉	伊
岡	宮	木	山	沢	田	村	藤	
秀	千	代	照	一	清	嘉	貞	邦
次	七	生	美	八	紀	正	次	
						郎	邦	
S	S	S	S	T	S	S	S	S
21	6	21	3	9	22	32	21	21
N	E	E	E	E	N	N	E	E
古	大	浜	北	矢	都	大	柴	
妻	西	口	川	田	地	沢	原	
秀	彦	義	文		健	則	勘	
夫	三							
郎	男	男	稳	藏	義	一		

本部だより

總  
會

慰靈祭終了後四階の合併室に集  
まつて昼食をすませたあと、別室  
で理事会を開き新役員候補者の選  
定その他を協議して、午後一時半  
から本年度総会を開催したので報  
告いたします。

○學校長挨拶

本日は多数集まつて頂きました  
有難うございります。念願の慰靈碑  
の建設も無事終り厚く御礼申上げ  
ます。海運界は世界一になるのも  
近い状況でございますので母校の  
発展もそれに合わせてあるよう祈  
る次第です。

○会長挨拶

## 四十三年度会務並びに会計報告 及び本年度事業計画の件

宗敬氏

碑文は鳥羽市教育長橋井栄八郎氏にそれぞれ依頼しました。物故者遺族の調査について

遺族の住所氏名を調べること

支部に協力を依頼して判明した  
方には八月二十五日付で招待状  
を出しました。

この調査についてはトバ広報と新聞及びNHKの御協力を得ました。

判明した遺族は約二五〇名で  
その中一〇五名が式典に参列し  
てくれました。

4. 除幕式並びに慰靈祭の模様について  
ついては前掲の通りです。

5. 本年度の同窓会報の発行は多少おくれるが年末前にはお届けいたします。

6. 四十三年度会計報告は次の通りです。

三〇〇トンの新しい設備とのとの  
たものが三保造船所で建造中で  
あります。三月末日で完成の予定  
です。最近の学園問題を思うと本  
校でも将来を考慮しなければなら  
ないと思いますが現在では一生懸  
命にやっているから御安心下さ  
い。



2. 会則では理事の定数は二五名以内となつてゐるが理事以外の人が支部長になつてゐる地区もあり、また理事増員の要望が出ている地区もあるので定数を三〇名以内として理事以外から支部長が出た場合、その人は自動的に理事に就任して貰うことになつた。

**第二条** 本会は鳥羽商船学校・鳥門学校内におく……

**新旧会則対照表**

**第一条** 本会は……本部を鳥羽商船高等専門学校内におく……

**第二条** 本会は鳥羽商船学校並びに本部を鳥羽商船高等専門学校内におく……

1. 学校が専門学校に昇格したので会則第一条と第二号を改正しました。

2. 会則では理事の定数は二五名以内となつてゐるが理事以外の人が支部長になつてゐる地区もあり、また理事増員の要望が出ている地区もあるので定数を三〇名以内として理事以外から支

3. 現在副会長は東京に一名と鳥羽に一名おいてあるが本会の運営を円滑敏捷ならしめるため鳥羽に一名増員することになりました。

4. 従来母校で会合するとき鳥羽近在の役員には旅費を支給しなかつたが財源に多少の余裕もできたので鳥羽市鳥羽地区は三〇〇円、伊勢及び鳥羽市離島は五〇〇円支給することになった。

**第六条** 本会に次の役員を置く。  
羽商船高等学校並びに鳥羽商船高等専門学校出身者を以って組織する。

**第六条** 本会に次の役員を置く。  
羽商船高等学校並びに鳥羽商船高等専門学校出身者を以って組織する。

会則一部改正の件  
会則の一部を改正する必要が生じたので本総会に提案して次のように決めました。

3. 現在副会長は東京に一名と鳥羽に一名おいてあるが本会の運営を円滑敏捷ならしめるため鳥羽に一名増員することになりました。

4. 従来母校で会合するとき鳥羽近在の役員には旅費を支給しなかつたが財源に多少の余裕もできたので鳥羽市鳥羽地区は三〇〇円、伊勢及び鳥羽市離島は五〇〇円支給することになった。

**第六条** 本会に次の役員を置く。  
羽商船高等学校並びに鳥羽商船高等専門学校出身者を以って組織する。

**第六条** 本会に次の役員を置く。  
羽商船高等学校並びに鳥羽商船高等専門学校出身者を以って組織する。

## ○議題二

昭和43年度一般会計決算 自至 43年4月1日  
44年3月31日

摘要	収入	支出	残高
繰入会金(58名)	29,000		498,481
会費(362名)	822,500		
預金利息	30,201		
雜収	1,803		
会報印刷代及び発送費		179,680	
一般印刷		3,000	
通信費		9,345	
旅費・交通費		74,190	
付費		15,000	
会員登録料		3,600	
会員費		5,100	
振替手数料		21,095	
郵便料		132,000	
人慶費		10,183	
雜費		7,190	
合計	883,504	460,383	921,602

旧鳥羽会館関係基金決算(44年3月31日)

摘要	収入	支出	残高
繰入金			1,560,509
預金利息	76,416		
近藤碑整備資金の残金	170,124		
合計	246,540	0	1,807,049

慰靈碑建設資金募金状況(44年3月31日)

摘要	収入	支出	残高
同窓よりの寄付 327名	1,033,000		
母校職員一同より寄付	100,000		
旧職員よりの寄付 1名	2,000		
部外者よりの寄付 1名	5,000		
合計	1,140,000	0	1,140,000

本会財産目録(44年3月31日)

項目	金高	内訳	金高
一般会計	921,602	郵便振替	63,823
基 金	1,807,049	銀行預金	3,376,405
慰靈碑建設資金	1,140,000	現物(ネクタイピン)	363,200
		現 金	65,223
	3,868,651	合 計	3,868,651

以上台帳等を照合して精査の結果正確であることを認めます。

昭和44年4月12日

監事竹内作夫

四日市支部	大川 延一	支 部 長	理 事
大阪支部	末崎 弘	支 部 長	理 事
神戸支部	吉村 武男	支 部 長	理 事
小原 博	支 部 長	理 事	
三宅 宮雄	支 部 長	理 事	
岡崎 武義	理 事	理 事	
山本 醇平	理 事	理 事	
浜畑 勇	理 事	理 事	
菅 恵治	理 事	理 事	
関門支部	福永 芳雄	支 部 長	
	なお六年間の永きに亘り会長として本会発展のため御努力を賜わった高橋前会長を顧問に推たいし記念品を贈呈することに決定いたしました。		
○議題 四	その他		
京浜支部よりの提案で永年全日本海に於て海事思想の普及と船員の労働条件改善のために努力しておられる同窓和田春生君が東京第七区から政界に出馬されるとの報告があり、皆で後援しようということになったからよろしく願います。			
引続いて前会長及び新会長の挨拶がありました。			
○新会長挨拶			

なお六年間の永きに亘り会長として本会発展のため御努力を賜わった高橋前会長を顧問に推たいし、記念品を贈呈することに決定いたしました。

○議題  
四

京浜支部よりの提案で永年全日  
海にあって海事思想の普及と船員  
の労働条件改善のために努力して  
おられる同志和田春生君が東京第  
七区から政界に出馬されるとの報  
告があり、皆で後援しようといふ  
ことになったからよろしく願いま  
す。

引続いて前会長及び新会長の挨  
拶がありました。

名譽ある本会の会長は神戸を中心で活動されて来たが、本部が鳥羽に来たことから、お前も同窓会の会長になつて面倒を見るようになり関係者がいわれまして極力お断り

○各支部現状報告

りしたのであります。母校は現在建設途上で色々と同窓会の力を必要とするものも多いので、政治との結びつきも多いお前のことだから、ここでひとつ是非引受けたということでお世話をすることになりました。谷口というベテラン副会長があり、更に鳥羽の市会議長をされている竹内さんが新しく副会長になられましたので誠心つくすつもりでありますのでどうかよろしくお願ひいたします。

きりする方がよいように思って  
る。 (加藤)

大阪支部

支部では玉川べりの松頬荘で毎年一回支部の総会をやっている。今年も近くやる予定ですが多数の参加者を呼びかけても若い人達の集りがあまりよくないのが残念である。

今度同窓の和田春生君が政界に進出することになったので東京で同窓生が集つて激励会を開いた。現在後援会を募集中でありますので、どうか一人でも多くの紹介者をお願いいたします。将来の大人物として出馬させることで、どうしても当選させたいと思うのでよろしくお願ひします。

名古屋支部

(三輪)

公害の四日市ではあるが同窓生  
はいざれもがん張つておられます  
から当地へ来られましたときは是  
非お立寄り下さい。毎年一回支部  
の総会をやっています。（西川）

同窓会支部二三年に発足させて現在に至っている。同窓生は各方面に活躍しているが、ここでも全員が集つて支部の総会をやれるようになりたいものである。今度新しく小原さんが理事になられたので支部の活動を一層活発にしたいと思っている。（吉村）

四日市支部

母校卒業生並びに  
学校職員の慰靈碑  
建設資金・寄付者・御芳名  
(44年10月12日現在)

E科	N科
高橋武衛門、神谷	義康
竹内 清磨、小池	忠平
久保四郎平、加藤	元三
加藤 秋藏、上山	貞男
谷口 英雄、提	好造
青木佐加男、西島	好夫

松本	橋川	杉田悌二郎、細川英一
幹	昭二、大西彥三郎	政郎
大瀬	田口成次、神戸友三	
磯辺	井村茂、磯辺三郎	
三郎	山下三樹夫、上田力一	
黒田	上野和泉、坂野竜春	
伊藤邦牛	榎本正、作田万寿生	
操	黒田俊夫、伊藤邦牛	
幸平	後藤恒夫、松原操	
五良	宇田啓三郎、尾崎幸平	
上村賢治	潮崎辰二、世古良吉	
秋山源一	大西茂、上村賢治	
杉田覺助	松本向井源一、杉田覺助	
照生義三	井村頼四、船木貞夫、佐波大鳥居健次、東川進、西井垣内	
錠次弘	坂本貞夫、佐波大鳥居健次、東川進、西井垣内	
時岡信一	岡崎武義、時岡松下信治、坪田田中亀佐男、田中鉢木安司、大久保清	
順雄貢	田中亀佐男、田中鉢木安司、大久保清	
弘文	鈴木数夫、橋本角次郎延一、前葉弘文	
展生	三浦学、関口展生	
廣治	今井一二郎、江崎久保文計、小山大川延一、前葉弘文	
逸男	杉本作栄、浅野清、竹内昇	
和昭	前田啓吉、博久田籠尾	
七郎	杉島作夫	

前田	渡部	耕作、夏目	弘明	哲吉
宇賀神	平光	上、山岡	五一、落合	孝雄
市川	文二	中川	信吉	
神宮	信三	木崎	保夫	
堀	義夫、大沢	高橋	則義	
佐藤	善喜、大沢	忠吉		
野田	芳樹、中林	奇一		
河口俊巳知、荒川				
壁谷	又和			
森本	滝生、水谷			
浅野	和彦、庄村			
岩井孝之助、田中				
出口	由平、藤原			
藤井	和男、下村甚一郎			
加藤	赤塚			
若林	善隆			
正一、酒井				
上村文三郎、赤塚				
亀山昌彦、小林三郎				
大石忠夫、小島健介				
岡田正雄、渕口義男				
谷友也、奥村長彦				
中山文雄、田中司良				
佐川徹、中山嘉美				
杉田寅雄、富永清				
矢田稔、高野富美男				
長沢秀樹、駒田定生				
木村富士雄				
吉原末治郎				
丸山末夫、中村裕文				
川室英明、藤原隆久				
武部二三男、山下裕彦				
上野篤夫、中野清文				
岸望、岡村熊治郎				

浜畑	柘植	勇、渡辺	和
成田寛太郎、川田	輔、三宅	宮雄	宮雄
田中 章治、林	田中 章治、林	六雄	
田中 忠士、長谷川俊治	田中 忠士、長谷川俊治		
長尾 利雄、内海	長尾 利雄、内海	好昭	
須藤 郁夫、山尾	須藤 郁夫、山尾	博一	
吉妻 秀夫、小原	吉妻 秀夫、小原	博	
水谷 学、桜田	水谷 学、桜田	保	
永谷 茂、石川	永谷 茂、石川	良人	
石原 久治、三浦	石原 久治、三浦	一好	
小池 安一、今高	小池 安一、今高	光雄	
白井喜和次、葛井	白井喜和次、葛井	圭二	
後藤 留吉、佐藤	後藤 留吉、佐藤	茂樹	
岩並 義雄、北橋政治郎	岩並 義雄、北橋政治郎		
森井 康祐、林	森井 康祐、林	一	
長谷川三千男、伊達 宏	長谷川三千男、伊達 宏		
新家 昭一、大島 幸夫	新家 昭一、大島 幸夫		
榎田 文弥、八木橋健治	榎田 文弥、八木橋健治		
山田 岳生	山田 岳生		
【一、五〇〇円也】			
【一、〇〇〇円也】			
N科	E科	E科	
大村 公明、谷口 次郎	鈴木 修、小泉 博	加藤富士雄、小林 義夫	
片山 勝則、中沢 横		嶽尾 敬弘、西川 敏夫	
長谷川雅昭、井上 上総		大沢 則義、上野登紀郎	
末崎 弘、沖田 彰		末崎 勝、久加藤 昇	
間宮 金一、山田 典昭		富岡 正博、鎌田 藤吉	
脇部欣四郎、沢口 義郎		長谷川雅昭、井上 上総	
山崎 嘉市、林 寿市		金 一、山田 典昭	
徳島 博、川村喜一郎		富岡 久、加藤 昇	
山本 太郎、森本 炳夫		長谷川雅昭、井上 上総	

伊藤直正、小浜  
剣持光雄、出口正之  
斎藤正、鈴木二郎  
片岡兼行、小出鎮甲  
中田勇、奥野明  
烟和之、山下柳平  
泉清八、柴原康喜  
久保郁夫、中山一美

**【五〇〇円也】**

N科 大江 煉  
N科 佐藤 清治  
**【四〇〇円也】**  
岡田商船株殿 同窓会一般会計  
母校職員一同

**【一〇〇、〇〇〇円也】**

**【一〇〇、〇〇〇円也】**

**【一〇〇、〇〇〇円也】**

岡田商船株殿 部外よりの御寄付

**【一〇、〇〇〇円也】**

楠井栄八郎殿、今村節子殿  
水沼三郎殿、神足りき殿

**【五、〇〇〇円也】**

伊藤勘次郎殿、大形次郎殿  
旭海運株殿、河合恒雄殿

**【三、〇〇〇円也】**

東京船舶株殿、近藤正殿  
北村勝夫殿

**【二、〇〇〇円也】**

松永健太郎殿、野呂幸枝殿  
山科えみ子殿、岩本秋子殿  
森本千早殿、森本みすえ殿

**【一、〇〇〇円也】**

竹内静男殿、稻垣政治殿

羽市長、市議会議長、第一中  
央汽船、大洋商船、山下新日  
本汽船、新栄船舶、昭和海運

【祝電】  
森田造園  
全日本船舶職員協会会長小山亮

氏始め多數

## 慰靈碑関係収支明細書

### 寄付金の部

卒業生	1,164,700円
同窓会一般会計より	100,000
学校職員	100,000
部外より	103,000
合計	1,467,700円

### 支出の部

項目	金額
合祀者名記入台帳及び保管箱	5,100円
慰靈碑資料及び案内状	30,800
印刷代	693,200
碑建設費	60,000
環境整備費	10,000
式典費	39,160
謝礼(揮毫・除幕・追悼歌教授・台帳記入)	8,000
感謝状揮毫料及び金一封(石友石材店・森田造園)	33,943
写真代	44,000
花輪代	5,000
幕幕借賃	184,000
参列者弁当代 320人分	104,000
記念菓子代 650人分	3,000
カワラケ	4,860
記章	6,566
通信費	9,335
役員会合費	114,295
役員旅費	734
支出合計	1,353,013
差引残高	114,687

行われ、四一二名の受験生が集まりました。今年の募集定員は航海科四〇名、機関科八〇名で、倍率は航海科六・八倍、機関科一・八倍でした。

### ★卒業式

商船高校専攻科五八名、本科七

名の卒業式が三月一八日に行われました。商船高校本科生最後の卒業式で、来年は専攻科のみの卒業式となります。商船高専の卒業式は昭和四六年九月まであります。大きさは現在の艇庫より幾分大き目の設計となっています。

### ★教養講座シリーズ

学生の教養を高める一環として主事の指導のもとに、学生会活動として始められたもので、六月二日には裏千家より酒徳嘉津子先生を招いて茶道の指導が行われました。日頃は乱暴をし勝ちな学生諸君もしづれをきらし乍らお点前されました。

昭和四四年度の予算で新練習船

「ぶれーめん丸」歐州航海記」と題する映画が本校で上映され一・二年生が観賞しました。

### ★新練習船の建造

昭和四四年度の予算で新練習船(三〇〇トン)の建造が進められています。四五年三月末日に引渡されることになっています。

### ★入学式

四月一日一〇時から今年度の入学式が挙行され、航海科四四名

機関科八〇名が入学いたしました。

た。機関科四〇名の増員により、

寮の収容能力では不足しますので

旧講堂を間仕切つて寮に改造しました。

從つて、十分な設備が施されています。

までも今年限りの臨時処置とのこ

とです。

### ★修学旅行、遠足

十一月十一日から十五日までの

今年度の入学検査が二月二二、

三月三日の両日、本校、大阪、名古

屋、静岡、東京、盛岡の六カ所で

内容は、校祖近藤先生が海運の将来を見通して商船教育をとりあげた功績を特に強調すると共に、

菊薫る勉学の季節を迎えて、職員・学生一同大いに張切っていま

が、同窓生諸兄に

は如何おこうじで

しょうか。先号以

来のお知らせは。

さと

の潮流

に本

校登場

×××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

××

にスポーツをやっていますが、その総まとめのようなもので、各クラスとも代表が懸命なプレイを行いました。

### ☆遠足

新緑の野山を楽しむ春の遠足が五月三〇日に行われました。行先は学年単位でまとめて、三年生が赤目四八瀬、二年生が湯の山、一年生が鈴鹿サーキットとそれぞれ貸切りバスで出掛けました。

### ☆映画観賞シリーズ

教養講座シリーズと併行に寮内映画観賞シリーズが開催されます。夜一九時半から約一時間、寮内では上映場所がありませんので講堂が利用されています。上映されるのは船または海運に関係のあるもので、六月から七月にかけてのプログラムを見ますと六月一日「日本丸航海記」「日付変更線を越えて」六月二十四日「パルブ専用船シトカ丸」七月一日「海を渡るコンテナ船」七月七日「日本の海運」「海運の新時代を迎えて」以上のように学生に対し課外活動を通じて海に親しむように企画され、学生の文化部が中心となって運営されています。

### ☆高専体育大会に出場

今年度から全高専連に加入してクラブ活動が行われていますが、日頃の精心の甲斐があつて柔道部のE3田中国章君が八月二〇日、仙台で行われた全国大会に出場しました。同窓会から多額の慰労金を頂きましたことをお知らせいた

します。来年度は、新設されましたが伊勢市内宮外苑の県営総合グランドにおいて全国大会が開催されることが決定されていますので、各クラブ共かんな練習を続けています。

### ☆志賀伸二教官退官

二十数年に亘って本校発展のためおつくし願つて来ました志賀教官が、御病気のため八月末日を以て退官されました。学生間に絶大人気のあった先生は、九州帝大法学院卒業以来、四〇年に亘つて教育界に奉ぜられ、うち半分を本校教官として御無理願つたわけで、先生のお世話をうけた卒業生のなかには船長、機関長として活躍されている人々も多数あります。先生の御住所は、伊勢市河崎町二一四一六です。御見舞の手紙を差上げて頂ければと願っています。

### ☆熊井博士来校

七月二日、アメリカ合衆国ニューハンプシャーのハノーバーにある低温研究所の主任研究官をしておられる熊井基博士が来校され、伊勢湾上の雲や霧について尋ねられ、落合が応待いたしました。熊井さんは北大から頭脳流出された方で、電子顕微鏡による水晶核の研究分野で世界的に有名なお方です。

### ☆新寮の鍵入れ式

低学年用の寮として、新しく購入した敷地内に建築されることになりました、延五、一〇〇坪の建

物の鍵入れ式が九月一七日に行われました。完成は来年三月末の予定で、三八〇名収容できます。来年度からは低学年と高学年とが分かれ寮で生活することになります。

### ☆二学期制の採用

今年度から従来の三学期制を二学期制に改めました。従つて、前七段抜きで本校がとりあげられます。

期と後期の間九月二七日と一〇月五日は休業となりますので、休暇が一回ふえたことになります。

### ☆朝日新聞に鳥羽商船の歴史が紹介

朝日新聞中部本社が企画し、三回（九月二六日現在）に亘つて連載中の伊勢湾物語の第一〇回に七段抜きで本校がとりあげられます。

物の鍵入れ式が九月一七日に行われました。完成は来年三月末の予定で、三八〇名収容できます。来年度からは低学年と高学年とが分かれ寮で生活することになります。

### ☆二学期制の採用

今年度から従来の三学期制を二学期制に改めました。従つて、前七段抜きで本校がとりあげられます。

期と後期の間九月二七日と一〇月五日は休業となりますので、休暇が一回ふえたことになります。

かくして出席者の話題は何時かの七〇名が最高で、この所少し落ち四〇名前後になってしまった。都合で午後九時半、全員校歌を合唱し次回の再会を楽しみに家路についた。

将来の展望について力強い所信がひれきされた。



(錦浦会)

S 19 N 浅野 和昭

午

昭和四十三年の京浜支部（錦浦会）の例会が去る十一月八日（金）午後六時三十分から、昨年と同じ会場である東横線多摩川園前の松籟荘で開催された。

京浜地区には、鳥羽の同窓生が今まで一一番集ったのが四十一年二名も加え三七名の出席者があった。

先づ、久保文計氏の開会の辞に始まり、江崎支部長の就任の挨拶があり、続いて三輪同窓会副会長から本年度の同窓会の総会の模様について詳細な報告が行なわれた。

加えて、中村栄三氏より慰靈碑建立についての募金の中間報告と協力を要請する旨の話があつた。

報告事項が終ると、恒例の懇親会に移りお互の健康と活躍を喜び合うと共に、各自の自己紹介と小

年出席いただいているが、永年代から小山十一会長には四十年から毎年出席しているが、永年代議士として政界で活躍されただけないだろうか。

小山十一会長には四十年から毎年出席いただいているが、永年代議士として政界で活躍されただけないだろうか。

現在七十四才と聞いているが、あって、話は何時聞いても上手で聴衆をあきさせない、その上力強いものがある。

今度、全日海の副組合長を辞めあと十年は海運界、船員界の為に働いてほしい人だ。

開校当時の教官はたつた二名、生徒は一八名であつたことや勝海舟と近藤真琴先生の関係などを紹介され、秋山茂次郎先生（八才）の談話などにより、創成期の本校の姿を知らされました。

開校当時の教官はたつた二名、生徒は一八名であつたことや勝海舟と近藤真琴先生の関係などを紹介され、秋山茂次郎先生（八才）の談話などにより、創成期の本校の姿を知らされました。

坂口才五郎、平光五一、中村栄三  
浜崎健三、三輪忠平、岡島利夫、  
宇田啓三郎、小林義夫、城山孝夫  
久保文計、青木佐加男、浅野和昭  
杉島昇、高橋清吉、藤本勇、林幹  
夫、菅恵治、高橋恭三、宇田川友  
也、千々波英信、辻裕、正元弘三  
長崎弘陽、原尽造、篠田秀平、奥  
玉健、高浦義一、加藤徳助、計三  
七名

運に全く地盤のない条件の悪い信  
州から代議士四期を勤めた。

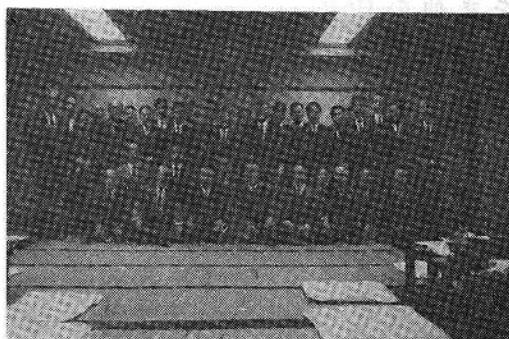
地方商船九十年の同窓生の中では最もすぐれた指導者の一人で今後これ以上的人物は出現しないだ  
ろう。約五十年前に母校を退校になり弓削を卒業しているが、当時の教官に今日の先見を求めることが酷か、それでも母校は大人物の卵を退校にしたものである。

なお、今回初めて群馬県より小林義夫氏、神戸から菅恵治氏が出席されたが遠方からも出席者があつたのは非常に喜ばしいことである。紙上をかりて両氏にお礼を申し上げる次第である。

京浜錦浦会を知らない同窓生は岡田商船の三輪忠平氏か中村栄三氏のどちらかに連絡されたい。

当日の出席者氏名

小山亮、江崎広治、奥平鱗太郎  
高山弥三郎、佐藤信次、家里琢夫



(43・11・15)

## 名古屋屋



### 卒業式に参列して

名鳥会会長 加藤重三郎

昨年來の冷夏暖冬と云われた天氣であるが、数日前には、三月には珍らしい大雪を全国にもたらした。これは台湾附近に発生した、台湾坊主と呼ばれる春先の台風が東日本を通ったため北方からの寒冷な空気が、日本を覆い東京あたりでは數十種の大雪で可成りの交通異変もあった様である。このお蔭で公害の都の空も、その時はきれいになつたとのことである。

さて初春らしく天気も回復し、また三月十八日(火)に私は母校の卒業式に参列のため、朝早く車を駆って名古屋駅に至り七時二十分発の近鉄宇治山田行の特急に乗った。車窓にうつる鈴鹿の連峰は、冷いきれいな空気で朝日に白銀を輝かせていた。四日市市内もけさはきれいで、私も乗った。私が生徒として鳥羽へ行った当時は、國鉄参宮線で勿論石炭たき機関車で亀山廻りで、名古屋から四時間以上もかかった。五十年も昔のことであるが矢張りその時の卒業式の感激の想い出は、ついきのうの出来ごとのように自分の記憶によみがえった。

それから五十年と云えば、半世紀であるが過ぎ去って見れば、長い間でも一瞬の夢である。恩師の想い出、級友の想い出で、そして日和山、樅の山、朝熊山、錦の浦鳥羽の町、これは私等を育てて呉れた第二の故郷である。

一時間少しで特急車は宇治山田駅にすばり込んだ。直ぐ鳥羽行のバスに乗った。今日の卒業式に参列する来賓と思われる方が多数乗っていた。

山田から二見を通って鳥羽まで至る道路は、朝熊山頂のスカイラインと共に今は鳥羽に行く觀光ルートである。二見から鳥羽市堅神町に至る道路両側の山嶺の麓は、東日本を通ったため北方からの寒冷な空気が、日本を覆い東京あたりでは數十種の大雪で可成りの交通異変もあった様である。このお蔭で公害の都の空も、その時はきれいになつたとのことである。

新校舎成って、いろいろと整備されつてある母校の校域の景観は全く昔の面影はない。本館屋上に掲げられている国旗は、国費で公害の都の空も、その時はきれいになつたとのことである。

文部大臣(代読)祝辞に統いて関係先の祝辞祝電は卒業生に贈られた。校長の告辭に統いて、卒業生一人一人に手渡された卒業証書には、卒業生各自は深い喜びと反響があったことと思う。

定刻案内されて式場に入った。

学生及び参列の父兄は既に着席されていた。一昨年新築された体育馆であるが、学生の倍増等でおい手狭くなることであろう。

開式の辞と、君が代の奉唱について、式次第は滞りなく進められた。校長の告辭に統いて、卒業生一人一人に手渡された卒業証書には、卒業生各自は深い喜びと反響があったことと思う。

文部大臣(代読)祝辞に統いて関係先の祝辞祝電は卒業生に贈られた。校長の告辭に統いて、卒業生一人一人に手渡された卒業証書には、卒業生各自は深い喜びと反響があったことと思う。

のものらしい播籠である。校門前のバース停留場で多数の乗客が降りたようである。



刺を通じて校長室に案内され、久保文計、青木佐加男、浅野和昭、杉島昇、高橋清吉、藤本勇、林幹夫、菅恵治、高橋恭三、宇田川友也、千々波英信、辻裕、正元弘三、長崎弘陽、原尽造、篠田秀平、奥玉健、高浦義一、加藤徳助、計三七名

定刻案内されて式場に入った。学生及び参列の父兄は既に着席されていた。一昨年新築された体育馆であるが、学生の倍増等でおい手狭くなることであろう。

開式の辞と、君が代の奉唱について、式次第は滞りなく進められた。校長の告辭に統いて、卒業生一人一人に手渡された卒業証書には、卒業生各自は深い喜びと反響があったことと思う。

のものらしい播籠である。校門前のバ

は母校卒業生として、愛情のこもつた同君の祝辞は、一同に胸を打つものがあったと思う。

「仰げば尊しわが師の恩」の曲のピアノの低い伴奏の裡に述べた卒業生総代の謝辞と在校生総代の送別の辞は、今日の感激を更に深めたものであった。

きびしい世相の中で、無事にこうして卒業生を校門に送られる校長先生のお喜びは、どんなものであろうか、長い航海を終えて無事に母港に帰着した船長であつた私にホットしたその時によろこびよりも優つていても劣らないものであらうとお察しした。

参列の父兄も皆様ご満足であられたことと思う。

式後に私等同窓会の理事一同は会議室で、理事会を開催して慰靈碑の着工等のことについて審議した。校長先生を始め関係職員の方にも同席していただき、色々と参考になるご意見を拝聴した。

午後四時西島君のクラウン・デラックスに同乗させて貰つて校門を辞した。同君のあざやかなハンドルさばきは轍の感触も滑る様であつた。

途中に海沿いの山頂を切り拓いて、最近新装なつた鉄筋コンクリート五階建のホテル池の浦荘に立て寄つて休憩した。支配人小林氏の案内で館内ならびに諸施設を一覧してからロビーにて急潮に浮ぶ飛島や中の島の絶景を一望の中に賞ります。



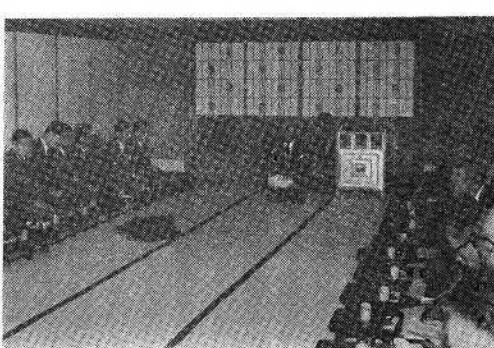
(T・H生)

## (鳥羽会)

## 四日市

(昭和四四、三、三一記す)

でながら若き日にオール両手に腕を鍛えたこの潮の香高い海辺の地を後にして宇治山田駅に車を走らした。

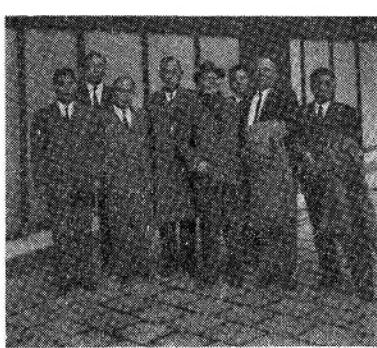


## 神戸支部



(四三、一一、一七　末崎弘記)

全国で御活躍の皆さま、お元気ですか、こちら神戸支部の皆さんも約百名前後おりますが、約半数の方々が海上に残りの約半数の方々が陸上にそれぞれの職場で元気一杯活躍しております。神戸支部自身も先輩の指導のよろしきを得て、主に四十才台の人達を中心とした三十才台、二十才台と支部発展のため尽力されております。



(四四、三、二八　九鳥会世話人　福永芳雄記)

## 神戸

出席者 大川延一、木下三雄、別府正、前葉弘文、若林正一、嶽尾敏弘、西川敏夫、今高光男、末崎弘、竹岡四郎、北岡万二、渡辺清、橋川八郎、中野清文、沖田彬大島秀也、中沢昌信  
本部 谷口英雄  
(四三、一一、一七　末崎弘記)

とをくわしくご承知です。神戸近辺にご来神の節は是非お立ち寄りいただきました、お話しをしていただけたらと思っております。

ご存知のように神戸港も年々変りつつあります。摩耶埠とう以東の埋立地もほぼ完成し大工業地帯が出来ております。また四突堤からの大橋も架橋されつつあります。

いよいよ人工島えの着手も最後の段階となつて来ました。したがいまして港則法も改正になりました。一大神戸港の展望があと一步というところです。



## 九鳥会開催御通知

第三回目の九鳥会を三月十五日(土)に開催せし處八名集合しました。

博多より大老の金沢富蔵氏(七六才)も出席され、お互に健康を祝し遠く母校を偲び写真にて母校の近状を推察し、又且ての学生時代の懐旧談に花が咲き頗る盛大であります。出席者は下記の通りであります。

田畠秋一、和田道夫、今井一二郎、金沢富蔵、植松春一、藤林耕三郎、塙田達夫、福永芳雄  
(四四、三、二八　九鳥会世話人　福永芳雄記)

役員会長 大川延一  
副会長 細川英一  
理事 前葉弘文  
同 同  
同 佐波義三  
同 西川敏夫  
同 末崎弘

船員協会の会館(ご存知と思いまが、この度全国商船学校十一年会を日本船舶職員協会と改名いたしました)を利用いたしております。また当協会の主事をなさつております岡崎様は母校の同窓生でございまして同窓会のため、もちろん協会のためにますますご活躍されておりまして、いろいろなことをくわしくご承知です。神戸近辺にご来神の節は是非お立ち寄りいただきました、お話しをしていただけたらと思っております。



## 商船高専の歴史

S 19 N 浅野和昭

鳥羽、富山、広島、大島、弓削の五商船高校は、昨年六月一日、正式に商船高等専門学校として新しい門出をした。

これから海運界で大いに活躍を期待される、これら五校の前身を、ひとわたり眺めてみたい。

旧実業学校令に基づく公立商船学校の原型は、明治八年十一月創設の三菱会社商船学校の本則学舎（旧高等商船の前身）に併設された仮則学舎がその起源である。

この仮則学舎は修業年限三年で、内航船乗組員の養成を目的としていた。この両学舎の卒業生の実際の進路には差異はなく、仮則学舎の卒業生からも多くの名船長、名機関長が輩出したのである。この仮則学舎は、まもなく廃止されたが、この両学舎の卒業生の実際の進路には差異はなく、仮則学舎の卒業生からも多くの名船長、名機関長が輩出したのである。この仮則学舎は、まもなく廃止されたが、この系統に属するもので独立した学校としては、明治十二年、住友吉左衛門によって創設された大阪商船学校、同年小林重吉、田中正右衛門等によって創設された函館商船学校、さらに翌年明治十三年、海事教育の先覚者・近藤貞琴によって設立されたのであり、これが現在の鳥羽商船高等専門学校の前身である。

いずれも、三菱商船学校に伍して、航海と機関の船舶職員を養成し、前二者の大坂、函館両商船学校は、本科と別科を設け、その本科は三菱商船学校の本則学舎に近い教育内容のものであった。この大阪商船学校は、その後府立となり、函館商船学校は明治二十一年通信省の所管に移って官立となつた。さらに明治二十四年には大阪が、ついで明治二十二年には函館が、それぞれ東京商船学校に合併されて分校となり、もっぱら簡易な学術、技芸を教授することとなつた。

その後海運の発達につれ、大島、粟島、広島にこれと同程度の商船学校が郡立・町村立として設けられ、明治三十二年の文部省実業学校令の公布を契機として、そこの教育内容も整備してきたので、東京商船学校の大坂、函館両分校はもはや分校として存置させる必要がなくなり、ついで明治三十四年四月この両校は廃止された。なお、鳥羽商船学校もその後廃校となつたが、明治三十八年六月、鳥羽町有志によって東海商船学校が設立されたのであり、これが現在の鳥羽商船高等専門学校の前身である。

明治三四年 北海道庁立函館商船学校（富山県立商船学校の前身） 明治三五年 佐賀県立海員養成学校（佐賀県立商船学校の前身）

明治三九年 新湊町立商船学校（富山県立商船学校の前身） 明治四一年 児島郡立岡山商船学校（岡山県立児島商船学校の前身） 明治四年 佐賀県立商船学校（佐賀県立商船学校の前身）

明治四年 鹿児島県立商船学校（鹿児島県立商船水産学校の前身） 明治四年 鹿児島県立商船学校（鹿児島県立商船水産学校の前身）

明治三四年 商船学校（愛媛県立弓削商船学校の前身）

これら各地に設けられた各商船学校は順次県立または市立となり、いわゆる公立商船学校として立商船学校に伍して幾多の人材を立商船学校の卒業生の過半が定期航路を経営する社船であったのにに対し、不定期航路を経営する、いわゆる社外船に多く進出したことが特長であった。修業年限は、一様に航海、機関科とも座学三年、実習三年でその後昭和に入つて海軍予備士官として採用されることになってから、実習三年のうち三ヶ月間は各地の海兵团に入団する制度が布かれ、入学資格は旧高等小学校またはこれと同程度、というものであった。

やがて、わが海運の海外進出の契機となつた日露戦争以後、これら商船学校がすべて、県立として新たにスタートしたが、その校名を創立の年代順に整理してみると次の通りである。

明治一四年 鳥羽商船学校（三重県立鳥羽商船学校の前身） 明治三十一年 大島郡立大島海員学校（山口県立大島商船学校の前身） 明治三十一年 豊田郡組合立葵陽海員学校（香川県立栗島航海学校の前身） 明治三四年 豊田郡組合立葵陽海員学校（広島県立商船学校の前身）

明治三四年 半減は非常な打撃であったが、生き残った学校は各県当局、地元の要望に応えてこれを維持し、それぞれに受難期をきりぬけた。

公立商船学校の教育目標は、少なくとも創立当時は内航船の乗組員の養成であったが、次第に国際海運界に進出する人材の育成に移り、実際に相当の人が輩出してゐる現状から、これを国の直轄とすることが妥当であるという考えが、文部省の意向として台頭してきた。これに拍車をかけたのが昭和十二年の日中事変の勃発である。事変によって活発な動きをはじめた海運界は、有能な船員の豊富な供給を必要としたため、文部省はこれを契機として公立商船学校の国営化を立案したほか、従来より民間団体にゆだねられていた普通船員養成機関の刷新改善のため、国立の海員学校新設を計画し、通信および海軍当局とも折衝を重ねることとなつた。

ところが、もともと民間団体をして普通船員を養成していた通信省は、文部省が普通船員養成機関を新規に設けることに反対したが文部省は、その必要性を力説し、その所管の問題は二義的なものであるとして、大局的見地から議会の協賛を経たのちに、海員学校を通信省の所管に移すことを提案し、その最初の計画は、教育の能率化と地理的関係を考慮して、公立

手続きがとられた。

当時、公立商船学校の生徒募集は、いわゆる公立商船学校として立商船学校に伍して幾多の人材を立商船学校の卒業生の過半が定期航路を経営する社船であったのにに対し、不定期航路を経営する、いわゆる社外船に多く進出したことが特長であった。修業年限は、一様に航海、機関科とも座学三年、実習三年でその後昭和に入つて海軍予備士官として採用されることになってから、実習三年のうち三ヶ月間は各地の海兵团に入団する制度が布かれ、入学資格は旧高等小学校またはこれと同程度、というものであった。

やがて、わが海運の海外進出の契機となつた日露戦争以後、これら商船学校がすべて、県立として新たにスタートしたが、その校名を創立の年代順に整理してみると次の通りである。

明治一四年 鳥羽商船学校（三重県立鳥羽商船学校の前身） 明治三十一年 大島郡立大島海員学校（山口県立大島商船学校の前身） 明治三十一年 豊田郡組合立葵陽海員学校（香川県立栗島航海学校の前身） 明治三四年 豊田郡組合立葵陽海員学校（広島県立商船学校の前身）

明治三四年 半減は非常な打撃であったが、生き残った学校は各県当局、地元の要望に応えてこれを維持し、それぞれに受難期をきりぬけた。

公立商船学校の教育目標は、少

なくとも創立当時は内航船の乗組員の養成であったが、次第に国際海運界に進出する人材の育成に移り、実際に相当の人が輩出してゐる現状から、これを国の直轄とすることが妥当であるという考えが、文部省の意向として台頭してきた。これに拍車をかけたのが昭和十二年の日中事変の勃発である。事変によって活発な動きをはじめた海運界は、有能な船員の豊富な供給を必要としたため、文部省はこれを契機として公立商船学校の国営化を立案したほか、従来より民間団体にゆだねられていた普通船員養成機関の刷新改善のため、国立の海員学校新設を計画し、通信および海軍当局とも折衝を重ねることとなつた。

ところが、もともと民間団体をして普通船員を養成していた通信省は、文部省が普通船員養成機関を新規に設けることに反対したが文部省は、その必要性を力説し、その所管の問題は二義的なものであるとして、大局的見地から議会の協賛を経たのちに、海員学校を通信省の所管に移すことを提案し、その最初の計画は、教育の能率化と地理的関係を考慮して、公立



次の諸氏は逝去された旨通知がありました。  
謹んで敬弔の意を表します。

(昭和四十三年九月一日より四十四年八月末日まで)

## 和歌

T 14 N 鎌田 藤吉

十月十二日除幕式に参列し、あまりの感激に慰靈碑に寄せて私の心の中のものを綴つてみました。

- 去りませし悲しき御靈集わせて永久に祀れり石文の下
- 石ぶみを学の祖の碑に近く建てておろがむ亡き人の靈
- 沖津島ぬれし翼を学び舎の庭に憩わせ飛び立ちもせず
- 霊祭り新たに悲しきありし日の人を偲べば目の熱くなる

## 「編集後記」

一、慰靈碑の式典は盛大に執行す

ることができる参列して下さった皆様には写真を配布いたしました。寄付金をいただいた方で不参の方には準備のでき

次第慰靈碑と学校全景の写真をお送りしますが、もし不達の方があつたら御請求下さい。

二、新名簿作製の準備をしていますから、各自の職業・現住所・郵便番号・電話番号等を全員お知らせ下さい。

三、次回会報原稿の締切りは昭和四十五年八月末としますから奮って御投稿下さい。